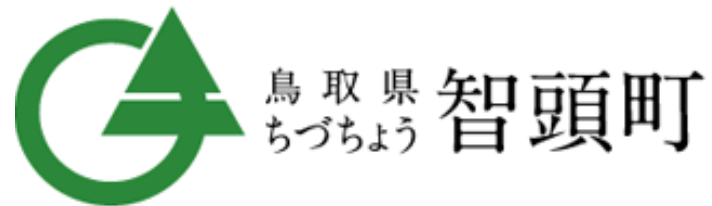


# 中山間地域における**住民主体**の S D G s まちづくり事業



# 1. 智頭町におけるSDGs推進の背景

## 地域特性

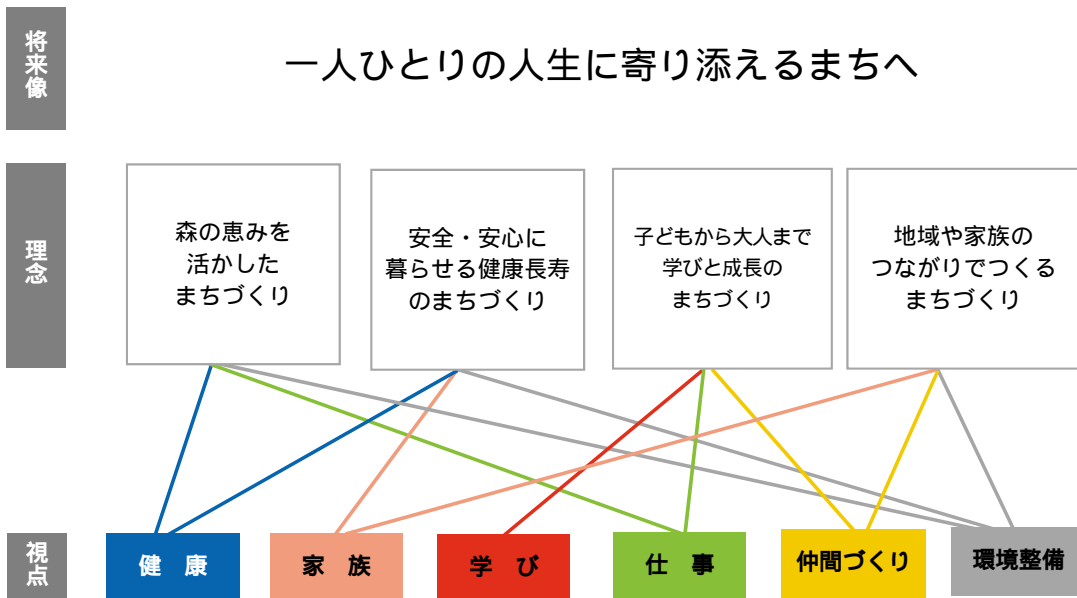
人口減少が進む中、**幸せな減少**を目指す。

- ・ 2040年の人口目標は5,000人

林業で栄えた町であり、**住民自治**のパイオニア。

- ・ 日本1/0（ゼロ分のイチ）村おこし運動（地縁型住民自治）
- ・ 百人委員会（テーマ型住民自治）
- ・ 住民主体による**総合計画**づくり

## 第7次総合計画とSDGsの近似性



誰一人取り残さない



## 2 . なぜSDGsに取り組むのか

目指すべき将来像を共有・認識し、まち全体が一つとなる仕組みづくりが必要



SDGsの理念を共有し、町内の関係者を巻き込む

- 1 持続性が強化される
- 2 これまでの取り組みのシナジー効果が生まれる
- 3 新たな価値が生まれる

# 3 . モデル事業の概要

## 事業名

中山間地域における住民主体の SDGs まちづくり事業

経済面

地域資源を活用した産業促進

- 次世代を担う林業後継者の確保、育成
- 地域資源を活用したビジネス促進



社会面

安心して生活でき、支えあうまちづくり

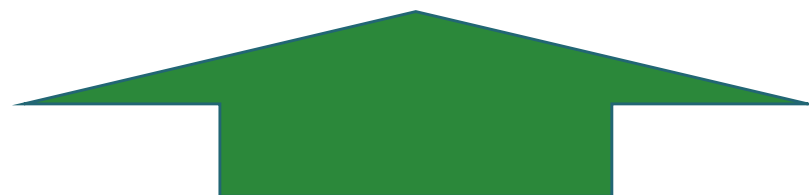
- 包摂による百人委員会の進化
- 育みの郷構想  
(女性と子どものサポートセンター)



環境面

自然環境を活かしたまちづくり

- 木育の推進及び児童・生徒の学習体験
- くるくるプラン推進



住民を巻き込み、これら取り組みを持続させるための  
プラットフォーム



## 4 . 三側面をつなぐ統合的取組

### 事業名

「稼ぎ」、「育み」、「支え合う」社会を持続させるための仕組み（プラットフォーム）構築事業

### 概要

- 1** 新しい公共ガバナンス  
住民と行政が一緒に価値を創造し、一緒に実行するといった新しい公共ガバナンスのあり方を検討。智頭町の現状、問題点、方向性について見える化し、町内でのコンセンサスを形成する。
- 2** 稼ぐ力を発揮できる組織づくり  
各地区の振興協議会を基礎として、組織づくりや場づくりを行う。
- 3** 育むための仕組みづくり  
「森のようちえん」「森林セラピー」などの取り組みを持続可能にするため住民主体で支援する（戦略作り、広報など。）
- 4** 支え合う社会的ネットワークの構築とICTの活用  
WEBサイトやSNSなどを活用し、情報共有や情報発信などができる仕組みを作る。

# 5 . 統合的取組によって生じる相乗効果

## 価値協創プラットフォーム

(多様なステークホルダーの間をつなぎ、住民と地域づくりを協創)

### 1) 経済 環境

(経済 環境)

「次世代を担う林業後継者育成」への参加者が増加による林業景観の維持 **林業施業面積**が増加。

(環境 経済)

森林資源の活用が促進され、「森林セラピー」への参加者が増加 都市部企業の森林セラピーを活用した**企業研修が増加**。雇用の創出。

### 2) 経済 社会

(経済 社会)

コミュニティビジネスの更なる展開による住民と行政の連携強化 **活動人口の増加**。

(社会 経済)

百人委員会等により、挑戦しやすい町と認識される 学生時代からのふるさと学習の成果が発揮され将来の担い手が増加し、**生産年齢人口の増加**。

### 3) 社会 環境

(社会 環境)

国の重要文化的景観に選定された優れた自然環境を啓発 景観や環境系に特化した**企画案が増加**

(環境 社会)

豊かな自然の維持・管理が推進され、森林を活用した事業がモデルとなることで誇りが生まれる 町の魅力向上により、**社会増減の抑制**と疎開保険加入者等による**関係人口の増加**。



# 6 . 自立的好循環

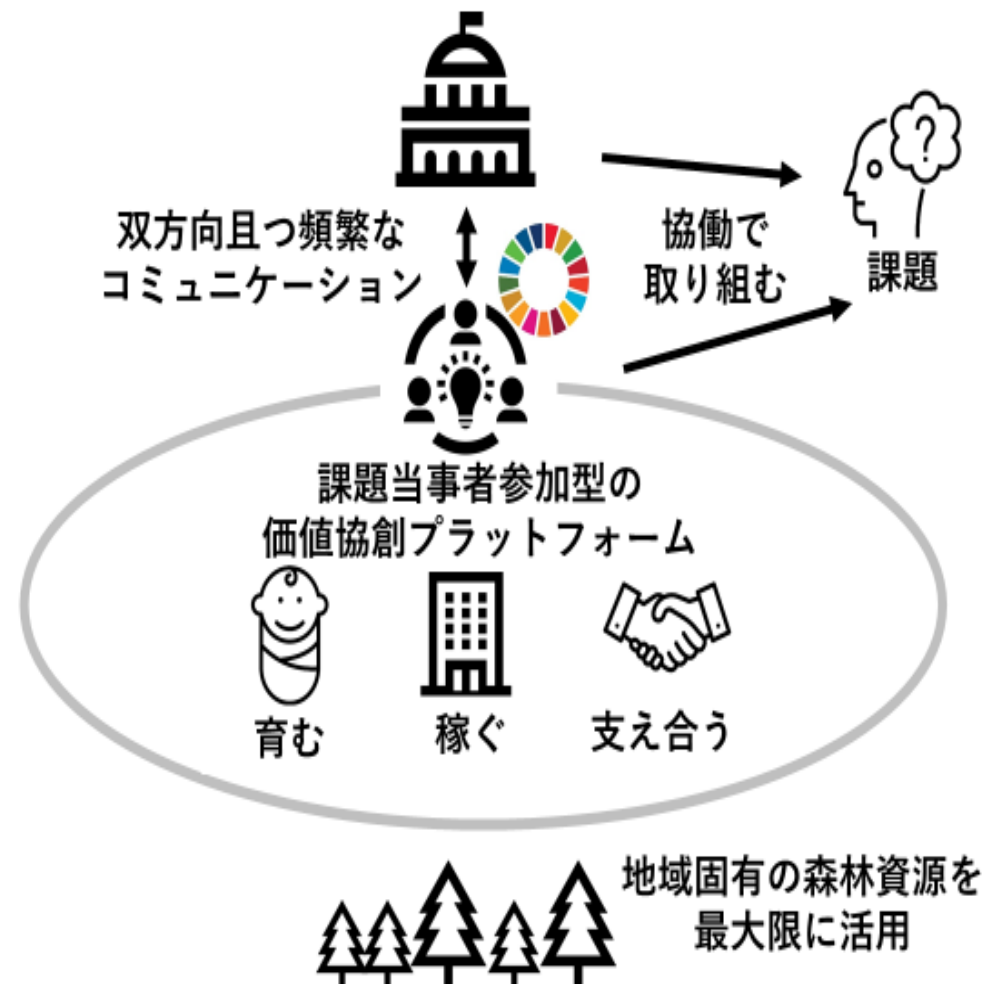
課題の多様化により行政だけの解決は困難



協創で取り組む必要あり



町内での連携（各世代間、産学官）  
他地域との連携（中山間地域や都市、企業）



本事業によって、行政の役割は、できる限りの情報を見える化し、さらに多様なステークホルダーをつなぐこと、そして住民主体での政策過程に参加し、協創することである。

このことにより、中山間地域の課題解決が効果的かつ、持続可能であることを証明し、同じ課題に取り組んでいる市町村へ普及していく。